

色絵 花鳥文皿
ドイツ・マイセン
18世紀前半
口径42.7cm



濁手 草花文蓋物
13代酒井田柿右衛門
通高30.1cm



色絵 花鳥人物文 蓋付六角蓋
伊万里(柿右衛門様式)
江戸時代(17世紀後半)
通高31.4cm



「柿右衛門」の

五色

ごしき 古伊万里からマイセン、
近現代まで

Colors of "Kakiemon" works especially Koimari,
Meissen and Sakaida Kakiemon XIII·XIV·XV



色絵 人物群像
伊万里(柿右衛門様式)
江戸時代(17世紀後半)
高14.2cm

会期 | 2023年4月8日(土) - 6月25日(日)

濁手と呼ばれる純白の素地に、赤・青・緑・黄・金の5色の彩色を基本として優美な絵付けを施した「柿右衛門様式」は、1670年代の佐賀・有田で完成されました。1660年代以降に本格化する西欧への伊万里焼の輸出を背景に、それまでの濃密な文様構成や濃厚な色合いから、濁手素地を活かした余白の多い構図と明るく爽やかな色調へと変化したものです。輸出先である西欧では大変な人気を博し、ドイツのマイセンをはじめとして写しが製作され、素地の白さや清らかな呈色が独自に追求されました。その後、西欧をめぐる中国との市場競争を理由とした様式変化によって途絶えてしまった柿右衛門様式は、戦後になって12代・13代酒井田柿右衛門父子による「濁手」の復興とともに復活を遂げ、現代にまで受け継がれています。

今展では、世界を魅了した柿右衛門様式の素地や絵具の「色」に着目し、色絵作品約80点を展示いたします。江戸時代の伊万里焼とマイセン、そして、近現代の「柿右衛門」作品をご堪能ください。

見どころ

見どころ その1

色絵作品のみ約 80 点が大集合！

今展では、出品品のすべてを色絵磁器で構成いたします。カラフルな作品が並んだ展示室をお楽しみください。

見どころ その2

初公開作品が多数！

「色絵 花鳥人物文 蓋付六角壺」（画像③）や「色絵 人物群像」（画像⑤）など、7 点を初出展いたします。

見どころ その3

知られざる所蔵の近現代作品も登場！

通常、当館の展示は古陶磁を主体としていますが、今展では所蔵する 13～15 代酒井田柿右衛門氏の作品 16 点も出展いたします。

展覧会紹介文

どうぞご活用ください。

■ 30words

古伊万里やマイセン、近現代の「柿右衛門」作品約 80 点を展示。

■ 100words

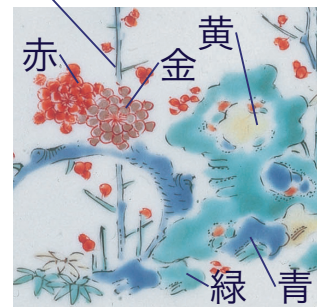
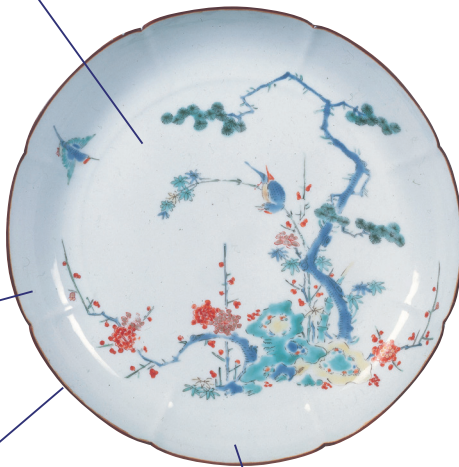
純白の濁手素地に、赤・青・緑・黄・金の 5 色の彩色を基本として施した優美な絵付けを特色とする「柿右衛門様式」。素地や絵具の「色」に着目し、江戸時代の伊万里焼やマイセン、近現代の作品、約 80 点を展示する。

「柿右衛門様式」とは……

1670 年代の佐賀・有田で確立された伊万里焼の色絵磁器の様式。皿や鉢類に典型的な様式で、濁手と呼ばれる純白の素地に、赤・青・緑・黄・金の 5 色の彩色を基本として施した優美な絵付けに特色がある。その創始には柿右衛門家が深く関わっているとみられるが、有田の中心部で広く作られた様式であり、西欧にも輸出されて人気を得た。

余白が多く、左右非対称の
絵画的な構図

輪郭は黒や赤の
細線



彩色

轆轤型打ち成形

皿鉢類は、轆轤で挽いて大体の形を作り、柔らかいうちに型に押し当てて変形させているものが多い。

縁錆

口縁に鉄分由来の茶色を塗り、全体を引き締めている。

濁手素地

丁寧に精製して不純物を取り除いた純白の素地。

◀①色絵 花鳥文 輪花皿

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17 世紀後半）
口径 22.0cm

2 羽の鳥と松竹梅を、細部まで配慮の行き届いた構図で描いた皿。純白の濁手素地に、爽やかな上絵の青を基調とした配色、梅花の赤と金彩による彩りを効果的に用いている。

特別展示室 「濁手—成立と模作、復活—」

濁手素地は、丁寧に精製を行って鉄分などの不純物を取り除き、釉薬も極力薄く掛けて青みを抑えた純白の素地を言います。ちなみに、「にごし」とは佐賀などの方言で米の研ぎ汁のこと。

有田では1650年代には純度の高い白色素地が見られ、1670年代以降の柿右衛門様式の典型作品に用いられます。その技術は18世紀には途絶えてしまいましたが、1953年に至り、12代・13代酒井田柿右衛門父子の探求により復活します。また、18世紀前半に柿右衛門写しをはじめドイツ・マイセンでも濁手素地の純白は目標とされました。

こちらの展示室では、古伊万里とマイセン、13・14代の白色素地を見比べていただけます。



◀②色絵 竹虎牡丹文 皿

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
口径 25.0cm

濁手素地の純白さが印象的な皿。その白さを生かすように空間を多くとり、左方に竹虎文、右方に牡丹文を組み合わせで描く。口縁に施した縁錆が純白さをさらに際立たせている。

第1・2展示室 「彩色—基本の5色とバリエーション—」

「五色」とは本来「種々の色」を意味しますが、柿右衛門様式の典型作品における「五色」は赤・青・緑・黄・金の5色。黒または赤の細線で輪郭を描いた後、この5色を基本として着色しています（画像①）。前時代に比べて赤は朱色に近い明るい色調に、緑や青、黄は透明感のある爽やかな色合いに変化しています。濁手素地の純白に合わせたものでしょう。

基本の5色のほか、茶や紫も使用するパターン、黄や金を除く4色または3色、染付による青の併用パターンなども見られます。基本の5色は柿右衛門様式の典型作品である皿・鉢類がほとんど。一方、人形や香炉などの器種は彩色パターンも多様となる傾向が認められます。

こちらのコーナーでは彩色数ごとに並べております。色彩や器種など柿右衛門様式の多様性をご覧ください。



▲③色絵 花鳥人物文 蓋付六角壺

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
通高 31.4cm

梅樹を愛でる人物、松樹に双鶴、竹に花鳥をあらわした壺。基本の5色に茶色を加えている。同時代には板作り成形による色絵壺は少なく、貴重である。



▶④色絵 花鳥文 皿

ドイツ・マイセン
18世紀前半 口径 42.7cm

古伊万里の意匠を元にした大皿。素地の白さもさることながら、基本の5色の発色も鮮やかである。

◀⑤色絵 人物群像

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
高 14.2cm

婦人と子ども、犬をあらわした像。掌サイズの群像は珍しいが、赤・青・緑・黄の4色と広範囲の黒で着色する例は、人物・動物像に多く見られる。

第2展示室 「復興と継承—13代から15代まで—」

1971年、「柿右衛門（濁手）」は国の重要無形文化財の総合指定を受けました。濁手を含む技術は現代まで受け継がれています。

絵具はそれぞれ研究が重ねられ、各代の個性があらわれています。13代から15代の色に対する思いを綴った言葉と共に作品をご紹介します。



◀⑥濁手 草花文 蓋物

13代酒井田柿右衛門
通高 30.1cm

一見瓶のようにも見える蓋物。濁手素地に赤色を主体とした地文様が鮮やかである。胴部の窓内には余白を残しながら桜風の花文を描く。

※画像①～⑥および展覧会ポスターの写真データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。また、ご取材も随時承っております。お気軽にお問い合わせくださいませ。

展覧会情報

- 名称 : 「柿右衛門」の五色—古伊万里からマイセン、近現代まで—
会期 : 2023年4月8日(土)～6月25日(日)
会場 : 戸栗美術館
所在地 : 東京都渋谷区松濤 1-11-3
開館時間 : 10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
※金曜・土曜は10:00～20:00(入館受付は19:30まで)
休館日 : 月曜・火曜
入館料 : 一般1,200円 / 高大生500円
※中学生以下は入館料無料。
交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。
同時開催 : 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第3展示室)
『柿右衛門窯のうつわ展』(やきもの展示室)

会期中の催し物

展示解説

『「柿右衛門」の五色—古伊万里からマイセン、近現代まで—』の見どころ

2階展示室にて、主な出展作品の見どころをご紹介します。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください(予約不要)。

- 4月15日(土)・6月10日(土) 各日14:00～(約45分)
- 参加費無料

ラウンジ&ギャラリートーク
「彩色にみる古伊万里・マイセン・近現代の『柿右衛門』」

前半は1階ラウンジにて古伊万里・マイセン・近現代の「柿右衛門」作品の彩色の特徴を概説し、後半は2階展示室にて展示解説を行います。

- 5月15日(月) 14:00～(約120分)
- 先着30名様
- 要事前予約
- 参加費 一般1,500円(税込)(入館券を別途お求めください)
年間パスポート会員1,200円(税込)

特別講演会

15代酒井田柿右衛門氏による
「柿右衛門窯の絵具」

15代酒井田柿右衛門氏にご登壇いただき、出展中の自作品等の解説や、作陶における絵具へのこだわりなどをお話しいたします。

- 5月28日(日) 14:00～(約45分)
- 参加費無料(入館券を別途お求めください。)

アート&イート
戸栗美術館×シェ松尾・松濤レストラン

戸栗美術館にて所蔵品をご鑑賞いただいた後、シェ松尾・松濤レストランにて佐賀県産の食材を使ったフレンチをご堪能いただけます。

- 5月3日(水・祝)～5月5日(金・祝)
各日各回10:30 / 11:00 / 11:30開始
- 参加費20,000円(税込)
- 各日各回先着5名様
- 要事前予約

次回展予告

古伊万里の「あを」

—染付・瑠璃・青磁—

2023年7月7日(金)～9月24日(日)

古伊万里の「あを」(青・緑・藍)に注目し、染付や上絵の青・緑、瑠璃釉、青磁釉の作品を展示いたします。



青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿
伊万里
江戸時代(17世紀後半)
口径28.0cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813
URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/> E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp